

---

# 日野市における徘徊の状況

---

平成31年3月  
日野市高齢福祉課

最大で過去 10 年間分（平成 21 年度分以降）の徘徊データから、日野市における徘徊の状況について分析する。ただし、分析のもととなる徘徊データは市内の地域包括支援センターからの報告に依拠しているため、原則として市内在住者の徘徊のみとなっている。また、自力で解決し報告等がない場合も考えられるため、市内で発生した全ての徘徊を含んでいくわけではない。（当事者・家族等が自力で解決し、報告等がない場合も考えられるため。）

平成 21 年度分からの延べ徘徊発生数は 484 件となっているが、有効回答を得られていないものを省いている項目もあるので分析時の母体に差異が生じている。

## 1.市内での発生件数

SOSネットワーク事前登録者数及びメール配信登録者数(推計)

	21年度末	22年度末	23年度末	24年度末	25年度末	26年度末	27年度末	28年度末	29年度末	30年度末
事前登録者数	42	81	129	167	195	237	277	202	295	340
メール配信登録者数（推計）		2,120件	5,850件	5,910件	5,853件	6,836件	7,630件	8,638件	10,624件	1,686件

徘徊対応状況

		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
徘徊者数(実人数)	人数	21	26	35	42	30	24	36	41	49	56	
	性別	男性	10	14	16	19	12	15	11	19	20	22
		女性	11	12	19	23	18	9	25	22	29	34
	年齢	～69歳	0	2	6	1	1	3	2	1	2	4
		70～74歳	4	2	4	3	4	1	6	5	5	11
		75～79歳	5	9	10	19	10	10	10	8	12	9
80～84歳		7	5	13	11	6	5	12	17	13	13	
	85歳以上	5	8	2	8	9	5	6	10	17	19	
延べ徘徊発生数	発生件数	31	31	52	50	41	32	45	49	68	85	
	警察へ通報	13	20	38	30	34	26	29	37	51	50	
	Eメール利用			10	9	16	15	12	18	25	22	
	防災無線利用	2	5	1	3	0	1	0	2	2	0	
発見数	合計	31	31	52	50	41	32	45	49	68	85	
	1時間以内	12	7	19	13	4	8	12	6	19	15	
	3時間以内	7	7	13	13	9	3	10	17	19	20	
	6時間以内	0	3	8	6	7	7	4	6	17	23	
	12時間以内	4	4	3	3	6	6	8	8	4	3	
	24時間以内	2	2	2	6	10	2	3	4	4	4	
	24時間以上	0	2	2	3	2	1	2	1	1	3	
不明	6	6	5	6	3	5	6	7	4	17		
発見できていない数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

表1

平成 21 年度から今年度までの各年度の SOS ネットワーク事前登録者数・メール配信登録者数・徘徊の発生件数は表 1 のとおりである。SOS ネットワーク事前登録者とは、徘徊時に早期発見・保護を目的に、認知症により徘徊のおそれのある高齢者の情報を、本人やご家族の同意を得て事前に市に登録してもらい、登録した情報は、地域包括支援センターや日野警察署と共有している方のことをいう。メール配信登録者とは、高齢福祉課が発信する「日野市行方不明者情報メール」を受け取っている方のことをいう。

延べ徘徊発生件数は年度ごとに増減をしているものの、平成26年度からは増加し続け、平成30年度は85件となっている。徘徊者数に関しては、各年度とも発生件数が徘徊者数（実人数）を上回っていることから、年度内で複数回徘徊をする人物がいることがわかる。徘徊者の年齢については、各年代に徘徊者はいるものの75歳以上が全体の70～80%を占めている。

徘徊発生時の対応としては、各年度とも、延べ徘徊発生件数の半数以上が警察へ通報しており、Eメールの利用は約20～40%（平成26年度のみ約50%）、防災無線の利用は0～5件で推移している。徘徊発生から発見までの所要時間に関しては、各年度とも6時間以内に見つかる場合が大半を占めているが、発見までに12時間以上要する方も数人いる。また、本人が他人に助けを求め、警察が保護をして徘徊が判明するなど、発生時間がわからないため、発見までの時間を“不明”としているケースも一定数ある。

平成30年度 徘徊対応報告書集計(包括別)

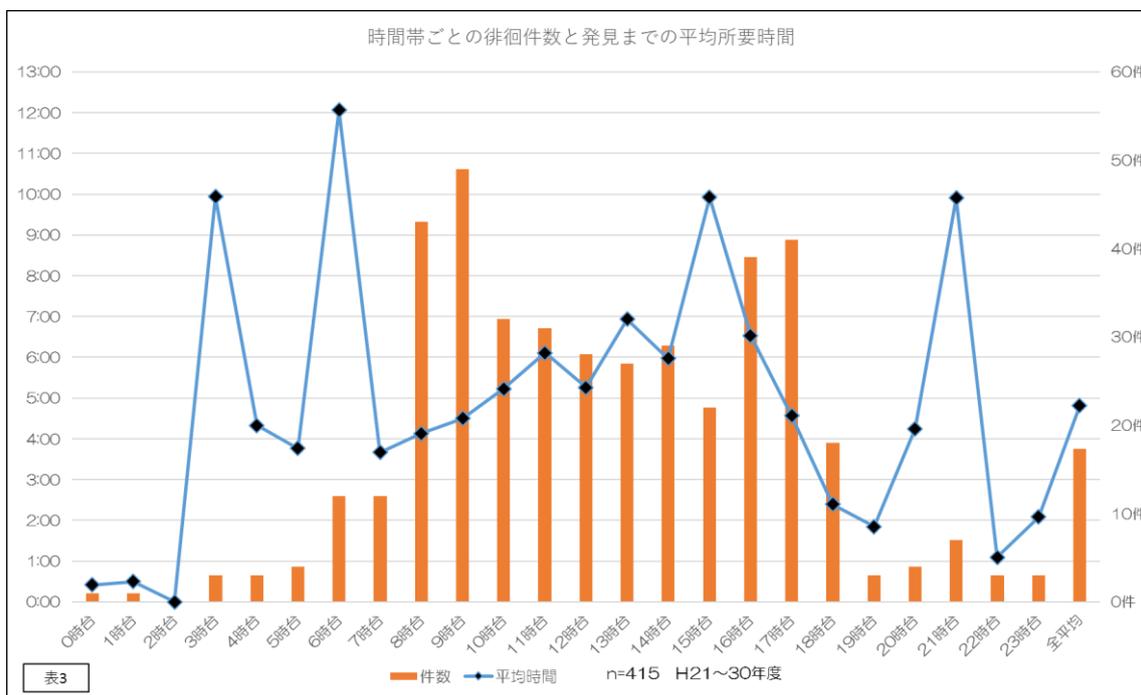
		もぐさ	あさかわ	すてつぷ	あいりん	せせらぎ	多摩川苑	いきいきタウン	すずらん	かわきた	計
徘徊者数(実人数)		5	8	3	12	8	8	5	3	4	56
性別	男性	3	2	1	6	4	2	2	0	2	22
	女性	2	6	2	6	4	6	3	3	2	34
年齢	～69歳	0	0	1	0	1	2	0	0	0	4
	70～74歳	0	2	1	2	1	2	1	1	1	11
	75～79歳	2	2	0	2	2	0	1	0	0	9
	80～84歳	2	0	1	3	1	2	2	1	1	13
	85歳以上	1	4	0	5	3	2	1	1	2	19
延べ徘徊発生数		13	8	3	18	12	10	8	8	5	85
警察へ通報		7	4	3	12	6	9	2	3	4	50
Eメール利用		3	2	2	3	4	4	0	2	2	22
防災無線利用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発見数		13	8	3	18	12	10	8	8	5	85
1時間以内		1	1	0	4	1	3	3	2	0	15
3時間以内		1	2	1	5	4	1	2	2	2	20
6時間以内		3	2	2	6	3	3	0	1	3	23
12時間以内		1	0	0	1	0	1	0	0	0	3
24時間以内		1	1	0	0	1	1	0	0	0	4
24時間以上		0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
不明		6	2	0	0	3	0	3	3	0	17
発見できていない数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表2

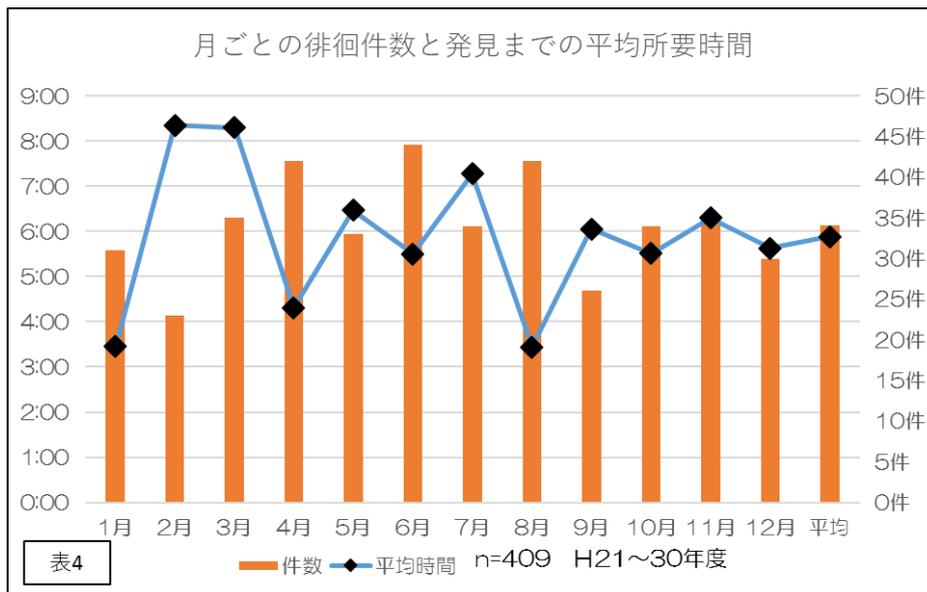
次に、平成30年度における各地域包括支援センターごとの徘徊発生件数は表2のとおりである。徘徊者数（実人数）と述べ徘徊発生件数が同数となっている地域包括支援センターは9か所中2か所となっており、それ以外の地域包括支援センターでは、同一人物が複数回徘徊していることがわかる。

## 2.日野市の徘徊の特徴

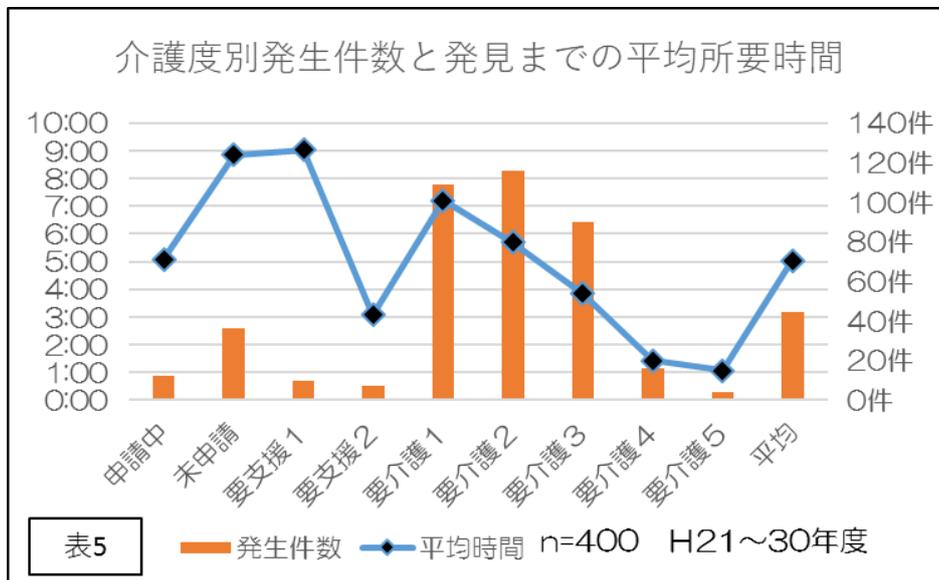
### (ア) 徘徊発生の時間・時期や徘徊者の介護度の違い



時間帯ごとの徘徊件数と発見までの平均所要時間を示したものが表3である。徘徊の発生は、日中が多く、特に午前8～9時台、午後は16～17時台に件数が多くなっていることがわかる。また、発見までの平均所要時間については夜間・早朝に発生した場合、発見まで時間がかかっている。概ねの傾向として、発生件数の多い時間帯の方が発見までの時間が短く、発生件数の少ない時間帯の方が発見までの時間が長くなっている。特に夜間発生徘徊の場合、夜通し徘徊状態が続くケースが起こり得る。



月ごとの徘徊件数と発見までの平均所要時間を示したものが表4である。月ごとの徘徊件数は、6月が最も多く、2月が最も少ないことがわかる。また、発見までの平均所要時間は2月・3月が最も長く、1月・8月が最も短くなっていることがわかる。2月は発生件数が最も少なく、発見までの平均所要時間が長いことから、(年にもよるが)最も冷え込む時期であることも考えると、2月の徘徊は最も危険であり、より一層の注意をする必要がある。



介護度別発生件数と発見までの平均所要時間を示したものが表5である。介護度別発生件数から、徘徊者の多くが要介護1~3であることがわかる。また、発見までの平均時間は要介護の方に関しては、介護度が重くなるほど短くなっている。未申請・要支援1の方の発生件数はそれほど多くはないが、発見までの平均所要時間は要介護の方と比較すると長いことがわかる。

(イ) 介護保険サービスの利用及びSOS ネットワーク事前登録の有無

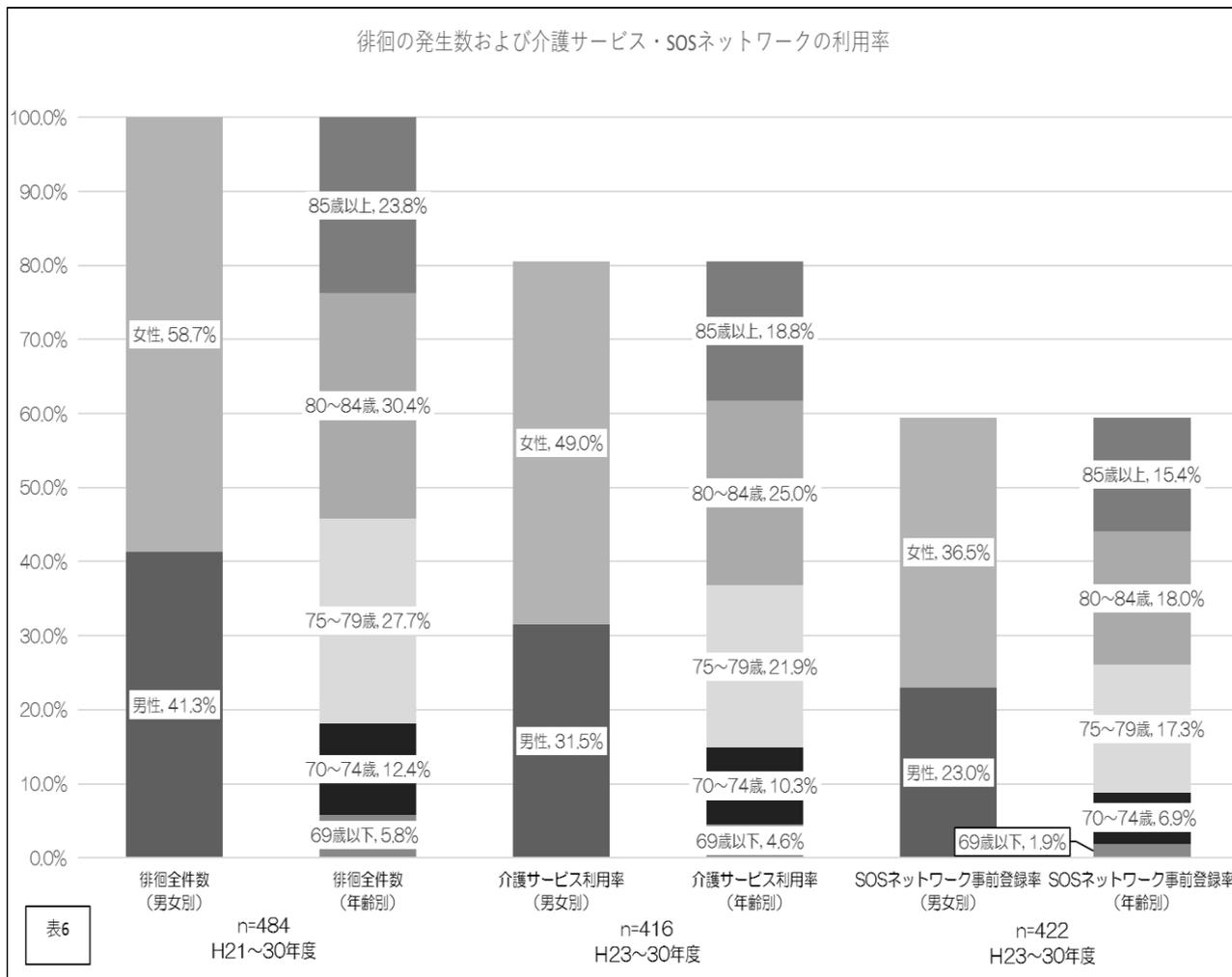
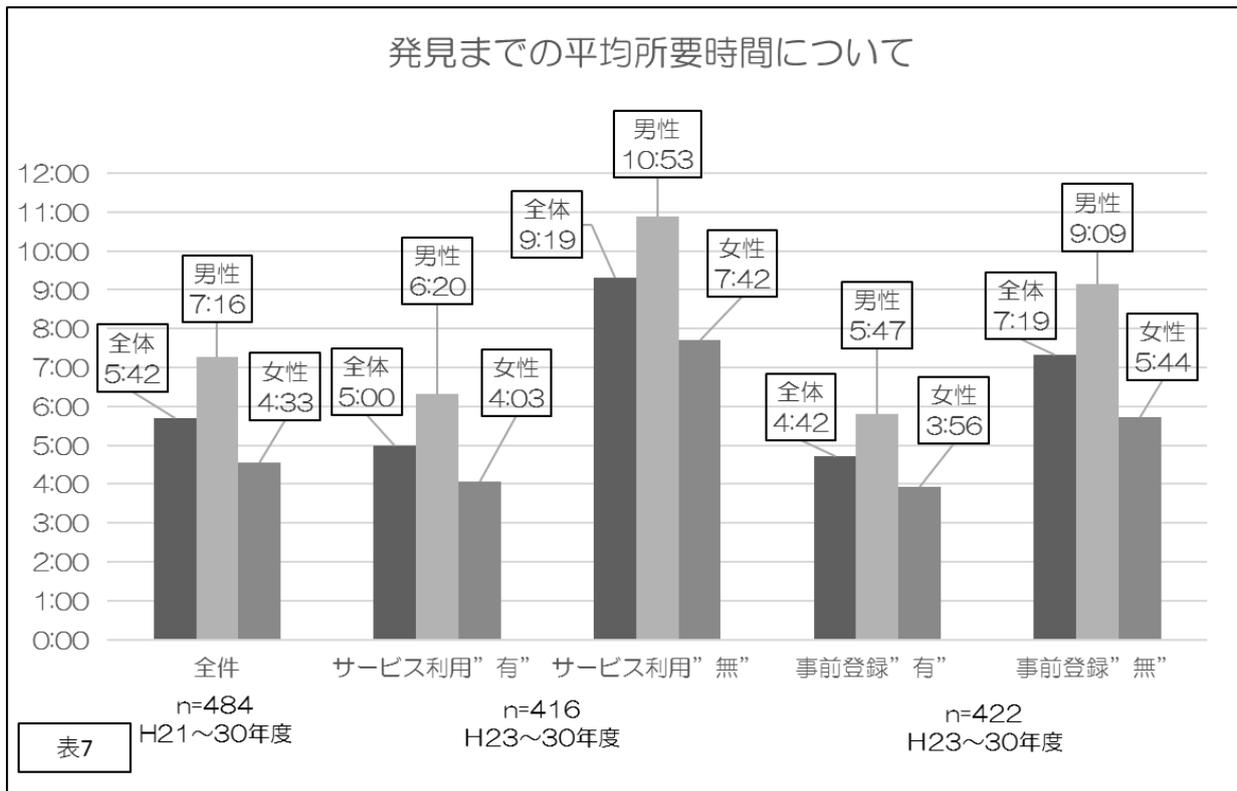


表 6 は、徘徊の発生数およびその中の介護保険サービスや SOS ネットワーク事前登録の利用率に関する表で、それぞれについて男女別・年齢別での構成割合を示した 2 種類のグラフが記載されている。(各要素の％は“n=”で示した全体数に対する数値である。例えば介護サービス利用率の男性 31.5%とは、介護サービス利用の有無を把握している全 416 件のケースのうち、男性で介護サービスを利用しているパターンが 31.5%を占めていることを示している。)

まず、発生した徘徊全件数を見ると、女性の徘徊が約 60%、年齢では 75 歳以上の徘徊が約 80%を占めることがわかり、この両者が重なる 75 歳以上の女性の徘徊が最も発生しやすいといえる。

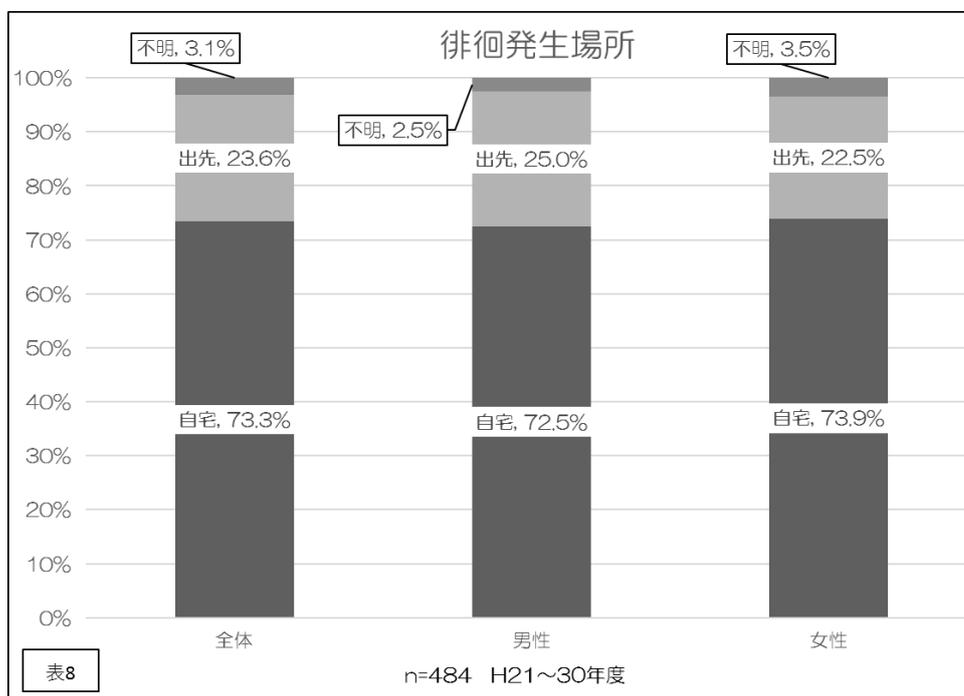
次に徘徊者の介護保険サービス利用率を見ると、全体の約 80%にのぼり、利用者における男女や年齢の比率は徘徊全件数と似たような状態になっている。

最後に SOS ネットワークの事前登録の利用率を見ると全体の約 60%となっており、こちらも利用者における男女や年齢の比率は徘徊全件数と似たような状態になっている。



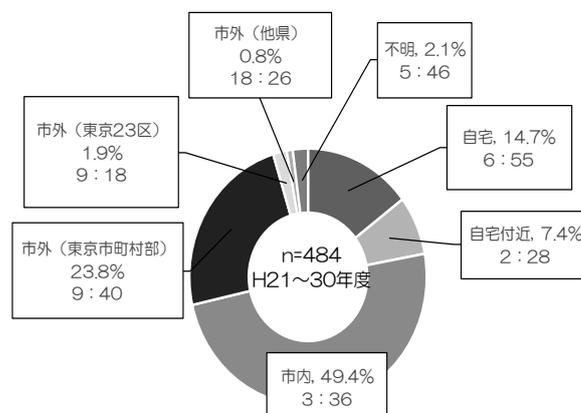
介護保険サービスや SOS ネットワーク事前登録の利用の有無による徘徊時の発見までの平均所要時間を示したものが表7である。示したすべての場合において、男性が女性より発見までにかかる時間の平均が長いことがわかる。このことは次の(ウ)において述べる、男女における徘徊時の発見場所の比率の違いと関係する部分があると考えられる。また、特筆すべきは、男女関係なく、介護保険サービスや SOS ネットワーク事前登録の利用によって、発見までの平均所要時間が短縮されるということである。介護保険サービスの利用によって4時間19分、SOS ネットワーク事前登録の利用によって2時間37分、発見までの平均所要時間が短縮されていることがわかる。このことから、介護保険サービスの利用と SOS ネットワーク事前登録の利用は、徘徊の早期発見に効果的であると考えられる。

(ウ) 徘徊の発生場所、発見場所、発見までの平均所要時間

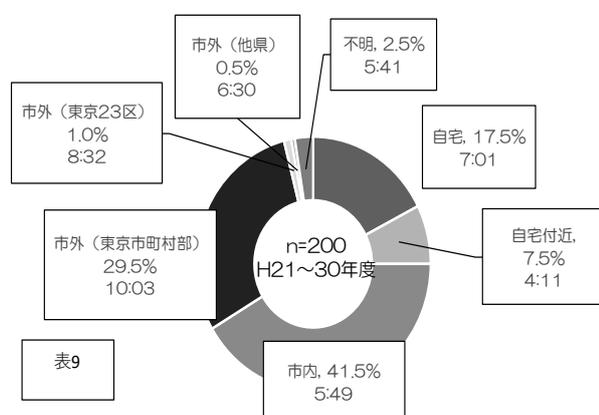


徘徊の発生場所を示しているものが表8である。徘徊の発生場所の約75%が自宅、約25%が出先となっている。自宅の場合は、「日課の散歩」に行き、いつもの時間に戻ってこずに徘徊が発覚する場合などが含まれる。このことから自宅で発生する徘徊は、「通常の外出」との判別が難しく、発生そのものを防ぐ事の困難さが推測できる。

徘徊発見場所と発見までの平均所要時間（全体）



徘徊発見場所と発見までの平均所要時間（男性）



徘徊発見場所と発見までの平均所要時間（女性）

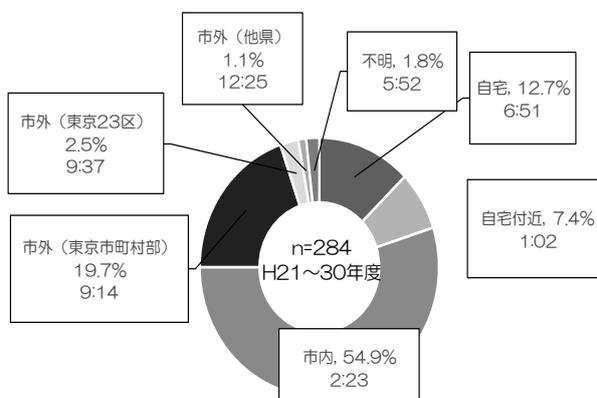


表9

徘徊発見場所と発見までの平均所要時間を全体・男女別で示したものが表9である。

徘徊発見場所について、発見場所が市内というのは男女ともに最も多い発見場所となっており、男性の約40%（自宅や自宅付近を含むと約65%）、女性の約55%（自宅や自宅付近を含むと約75%）が市内で発見されていることがわかる。次に発見までの平均所要時間についてだが、男女ともに「自宅付近」や「市内」で見つかる場合は「自宅」や「市外」で見つかる場合よりも早期に発見されていることがわかる。また、女性の場合は、「自宅付近」や「市内」での発見までの平均所要時間は2時間23分以内、「市外」での発見までの平均所要時間は9時間14分以上と発見までに約7時間の差があることがわかる。また、男女ともに「自宅」で発見される場合の平均所要時間が「自宅付近」や「市内」で発見される場合よりも長くかかっていることもわかる。

### 3.まとめ

平成 30 年度の延べ徘徊発生件数は 85 件となっており、過去 10 年で一番件数が多くなった。しかし、半数以上の 58 件は 6 時間以内の発見につながっている。また、今年度は例年に比べ、発見までの所要時間が不明の件数も多くなっている。これは、徘徊として捜索する前に、通りがかりの市民や市内事業所の方が気付いて交番に連れて行ったり、地域包括支援センターや警察に連絡をしたりしているためである。

日野市の徘徊の特徴でも述べたように、徘徊者の多くが要介護 1～3 の方であり、概ね介護度が低い方が発見までの平均所要時間がかかっていることや、介護保険サービスの利用によって 4 時間 19 分、SOS ネットワーク事前登録の利用によって 2 時間 37 分、発見までの平均所要時間が短縮されていること、また、男性の徘徊の約 40%（自宅や自宅付近を含むと約 65%）、女性の徘徊の約 55%（自宅や自宅付近を含むと約 75%）が市内で発見されており、男女ともに「自宅付近」や「市内」で見つかる場合は「自宅」や「市外」で見つかる場合よりも早期に発見されていることが、過去 10 年分のデータからわかっている。

これらのことから、徘徊をしたことがある、あるいは徘徊をする危険性がある場合に介護保険サービスや SOS ネットワーク事前登録の利用を促すことは大切であると言える。また、実際に徘徊が発生した場合は、自宅付近・市内にいる間に発見できるよう、早期に捜索していく必要がある。徘徊時の気候や季節・時間帯により、生命の危険度が高くなるケースも考えられるので、徘徊時の早期発見に向けた取組みを行っていく必要がある。